

登別の春を満喫

Nネットまつり

5/20

5月20日(日)、亀田記念公園で「Nネットまつり」(のほりべつNPOネット主催)が行われました。

今年で3回目となる同まつりは『のほりべつNPOネット』を構成する市内7つの特定非営利活動法人(NPO法人)のほか、就労支援施設などが、野菜や花苗、手作り雑貨などの販売をはじめ、自然散策体験など、趣向を凝らした物販や催しを開催しているものです。

当日は、お花見やウオーキングで訪れた多くの市民も会場に立ち寄り、春を感じながら、まつりを楽しんでいました。



▲晴天に恵まれ、多くの市民が集まった会場

火山と共にある生活に必要な備え

5/22

倶多楽火山防災協議会

5月22日(火)、労働福祉センターで登別市や白老町、北海道が共同設置する『倶多楽火山防災協議会』が開催されました。

登別市と白老町にまたがり、温泉などの豊かな自然の恵みを生み出す倶多楽火山と共生していくため、同協議会では、火山が噴火した場合や噴火が予想される場合の影響範囲のほか、防災対応に当たる団体が実施すべき役割、地域にお住まいの方や観光客がとるべき避難行動などをまとめた『倶多楽火山避難計画』の策定に向けて協議を進めています。

平成30年度第1回目となる今回は、避難計画(案)について協議を行ったほか、現在の倶多楽火山の活動状況などを共有し、いつ起きるかわからない災害に備え、団体間の連携を強化していました。



▲登別市内外から25の団体などが集まり、倶多楽火山の現状などの情報共有を図った倶多楽火山防災協議会

登別の新鮮な海の幸をお手頃価格でお届け

5/26

登別漁港 朝市

5月26日(土)、登別漁港で地場産の水産物の消費拡大などを目的とした『朝市』(いぶり中央漁業協同組合水産物消費拡大推進事業実行委員会主催)が開催されました。

登別漁港で水揚げされたカレイやマス、ツブ貝、南蛮エビなど、さまざまな魚介類が並んだ朝市。販売開始から見る見るうちに商品がなくなり、わずか20分で完売するほどの大盛況でした。



▲お目当ての魚介類を買い求める人々

伊達市から買い求めに来たという岸幸子さんは、「生きているエビを安く買うことができて良かったです」と大満足。この朝市は11月まで、登別漁港などで月1回程度行われる予定です。

多文化共生を学ぶ

登別市民憲章制定50周年記念
第2回国際理解講座

5/22

5月22日(火)、市民会館で「登別市民憲章制定50周年記念 第2回国際理解講座」(市主催)を開催しました。

今回は、平成29年7月から市内で外国語指導助手を務めるコージ・ウメザワさんを講師に迎え、出身地であるカナダ・オンタリオ州トロントの地理や文化などについて講話を行いました。トロントは、世界中から多くの移民を受け入れてきたため、人口の半分以上がさまざまな国や地域からの移住者であり、消防や救急サービスが150もの言語に対応しているという話を聞いた受講者は、驚きと感嘆の声を上げていました。



▲ウメザワさんの話に耳を傾ける受講者